

新型コロナウイルス感染症を**過度**に恐れることなく、 社会経済活動を取り戻していきましょう。

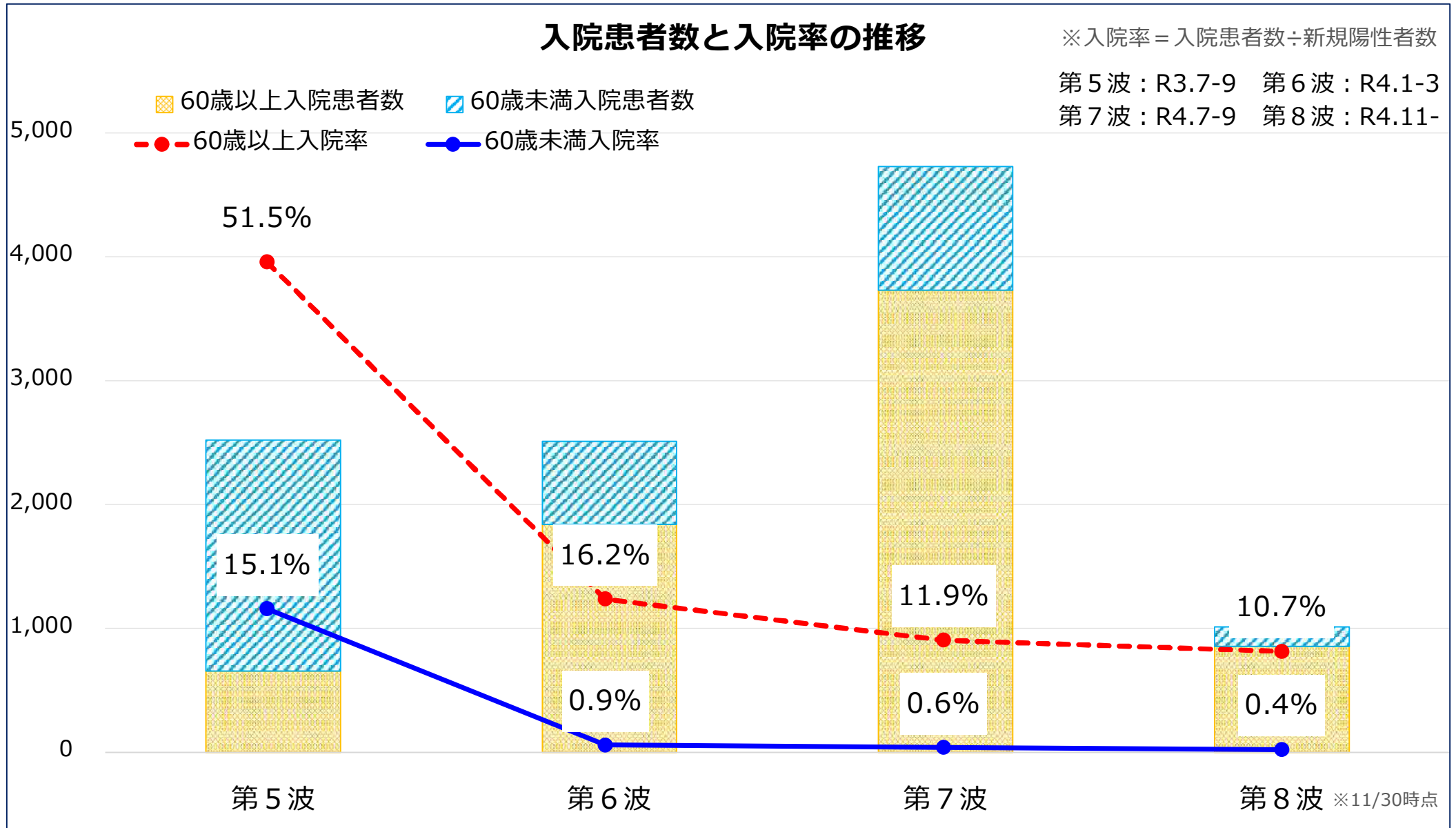
- 現在、オミクロン株が中心であり、入院率や重症化率、致死率が低下していることから、新型コロナウイルス感染症は、**かつてほど恐れる疾患ではありません**。
- 本県は「2類相当」から「5類相当」への見直しを国に要請していますが、海外の感染対策や国内の感染状況等を踏まえ、**社会経済活動を元に戻していけるよう、率先して取り組んでいきます**。

※引き続き、**臨時の医療施設の設置**など、**医療が必要な方への適切な対応は継続**します。

※変異株の拡大や、新たな変異株の出現については、**県衛生研究所でモニタリング**しています。

状況の変化①（入院率の低下）

- **第7波は第5波の「25分の1～5分の1程度」の入院率**となり、波を追うごとに低下。
- **60歳未満の入院率は1%未満**であり、**陽性者100人に対して1人未満**に相当。



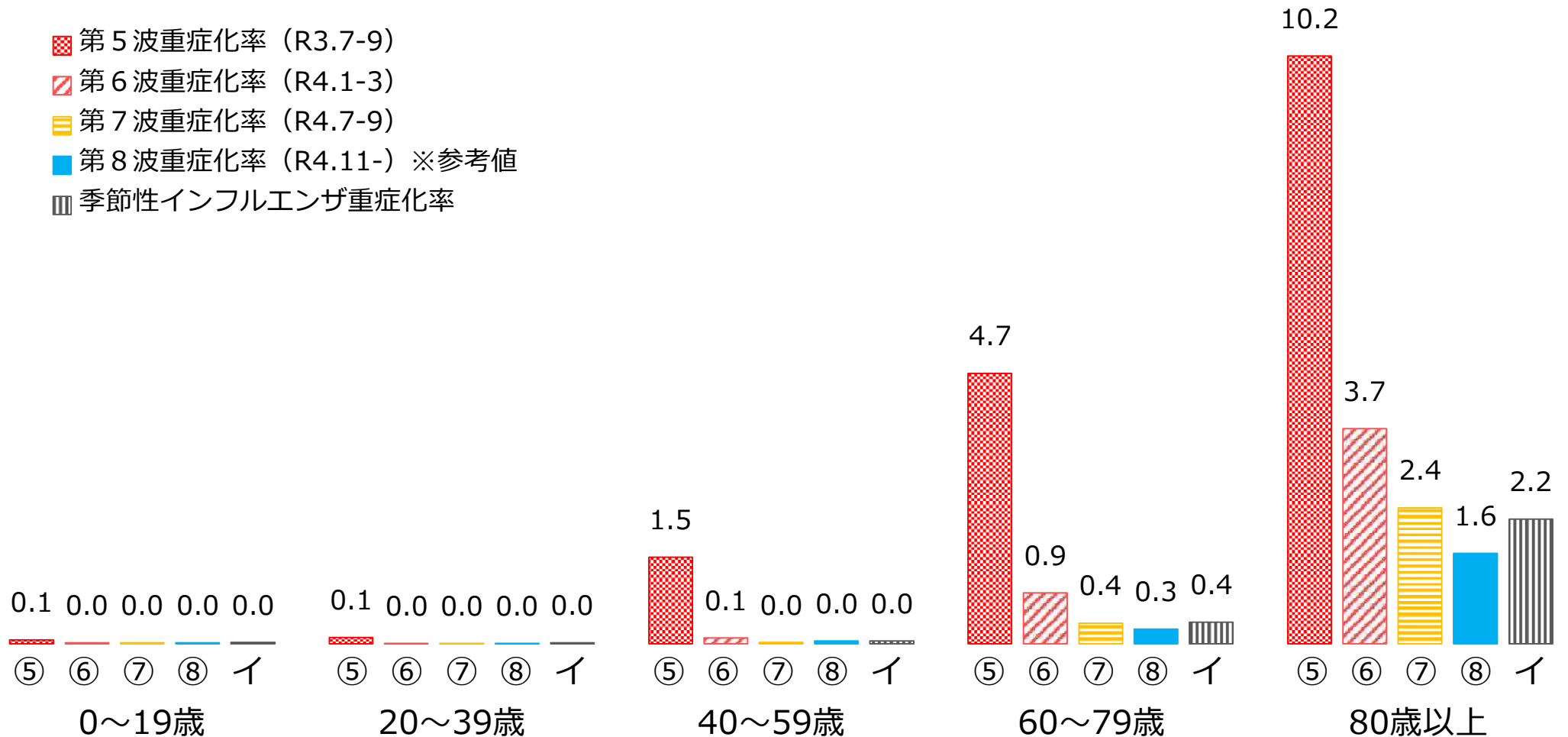
状況の変化②（重症化率の低下）

- **重症化率は波を追うごとに低下し、第7波以降は季節性インフルエンザと同水準。**
- 特に、**40歳未満の重症化率は0.01%程度**と低く、**陽性者1万人に対して約1人**に相当。
⇒若年層の重症化事例は、新型コロナ以外の疾患の悪化等で重症病床・ICUの利用が大半。

重症化率の推移（単位：%）

※重症化率 = (死亡者数 + 重症者数) ÷ 新規陽性者数

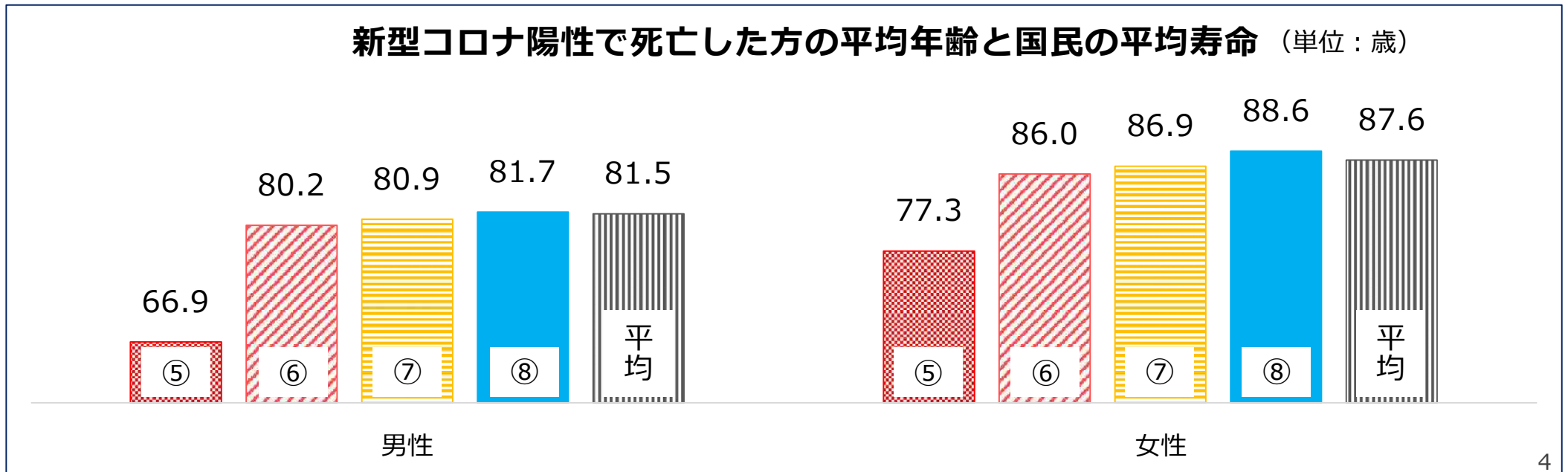
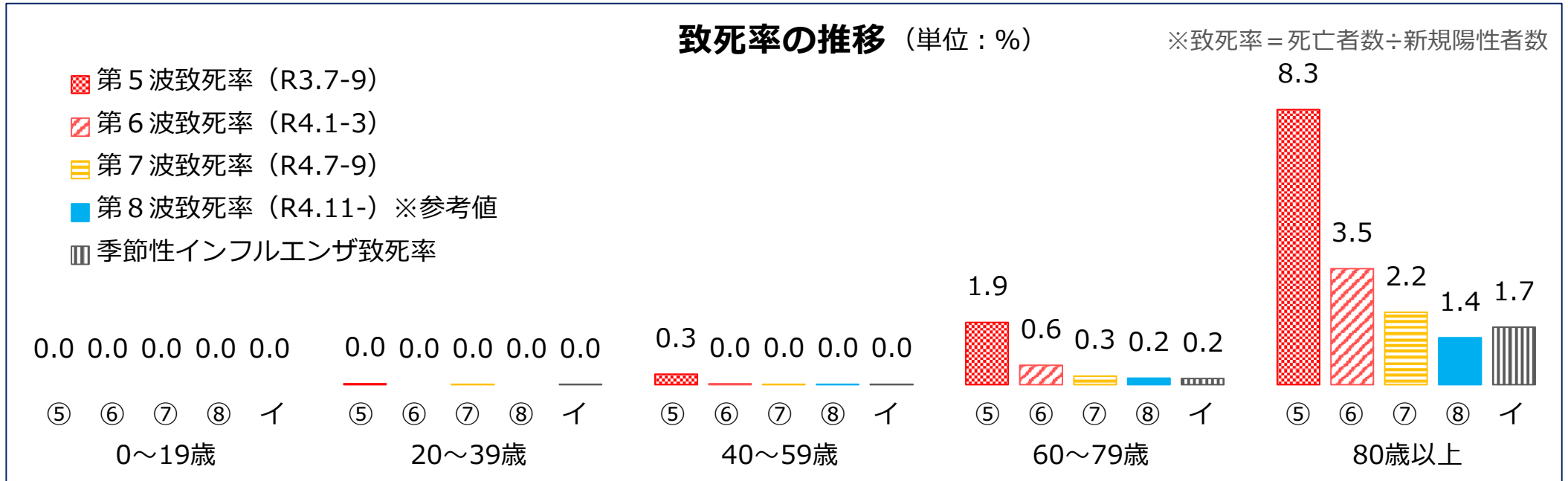
- 第5波重症化率（R3.7-9）
- 第6波重症化率（R4.1-3）
- 第7波重症化率（R4.7-9）
- 第8波重症化率（R4.11-）※参考値
- 季節性インフルエンザ重症化率



※季節性インフルエンザについては、国の新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード（第74回）に提出された資料を基に作成。次ページも同じ。

状況の変化③ (致死率の低下と死亡者年齢の上昇)

- 致死率も波を追うごとに低下し、第7波以降は季節性インフルエンザと同水準。
- また、新型コロナ陽性者の死亡年齢は、平均寿命と同等かやや高い。



「臨時の医療施設」の設置場所について

公益財団法人 日本財団のご厚意により、
土地を無償でお貸しいただき、『臨時の医療施設』を
つくば市^{みなみはら}（南原2）に設置します。

